

十年前にはなかつた、我々が空中を歩くと云ことは思ひも寄らぬことであつた、今日は誰も何とも思つて居りませぬ、一昨夜の如きは雄飛號が通つても東京では顧みる者もなかつた程であります、昔は夢にも知らなかつたことでもあります、こう云ふ風に發明と云ふものは意想外であります、鐵と云ふものに付ても、どう云ふ發明が、どう云ふ所からどう出るか分らぬ、思ひも寄らぬ簡便な經濟的な製作方法が出て來ないとは限りませぬ、それ故發明の獎勵と云ふことは、鐵の自給策に付ても急務であると思ふ、世の諺にも「モウ」が「マダ」と云ふことがあります、「モウ、モウ」間に合はぬと云ふても「マダ、マダ」遅くはありませぬ、此際、鐵の冶金に付て發明を獎勵するのが必要かと思ひます、それで私の自給策の一を具體的に言へば、一方に於ては鐵の製作若しくは冶金に付て發明を獎勵する方法を取り他の一方に於ては鐵を節約して使用すること、并に鐵の代りに他の豊富なる物を用ひると云ふことに就ての考案を獎勵したならば實際的自給策になりはせぬかと思ひますので、聊か諸君の清聽を汚した次第でございます。(拍手)

### 鐵鋼の獨立自給策に對する討議

笹村萬藏

私は只今御紹介になりました新潟鐵工所の笹村であります、私も鐵の缺乏に付ては非常に苦痛に感じて居る一人であります、此の焦眉の急を濟ふ御名案を聞くべく昨夜態々夜行て此會に出ました次第であります、先刻來根本的問題に付てのお話は種々貴重なる御演説がありまして満足しましたが、只今鐵工業者が差當り最も苦痛を感じて居ります應急的材料供給方法に付ては餘りお話が少いので聊か失望しましたが、是より追々お話があるやうに願ひたいのであります我々も三木君のお話のやうに民間工場にては製鐵所よりインゴットなりピレットなり原料の供給を願ひ各種の材料を各分業で製造するのも一種の方法と思ひます、是は野呂博士のお話の根本的自給方法には矛盾することでありますが應急の策として差當り己むを得ないと思ひます、もう一つ考へて居りますのは船腹の不足と云ふことが料を運搬することの出來ぬ原因と思ひます、果して亞米利加が賣止になつて材料の供給が出來ぬならば仕方がありま

せぬが、若し幾分の船腹があれば供給が出来るならば單に鐵の船斗りを造る考をしないで、木船で二千噸なり三千噸なりの船を此際十艘なり二十艘造つて亞米利加にやつたら如何かと思ひます、一年に四遍なり五遍なり通つても宜い、大なる木船を造つて何か此際焦眉の急に應ずる方法はないか、木船を造つて鐵船に代用することは昔に返るやうな迂遠な方法でありますかも知れませんが斯る非常の場合故是も一つ其道のお方にお考を願ひたいと思ひます、若し木船は遠洋航海に適せぬとならば此等の木船は近海航路の鐵船に交代せしめて鐵船を米國に廻す様にしてもよいと思ひます、一寸此事を御相談を致します。(拍手)

### 鐵鋼の獨立自給策に對する討議(鐵鋼の應急的自給策)

工學博士 今 泉 嘉 一 郎

私は二十年來先輩の驥尾に附いて製鐵事業の爲に従事して居る一人でございますが、今回の鐵の恐慌に付きましては私は今更の如く甚しき苦痛を感じませぬ、其感じませぬ譯と云ふものは、今日の鐵の恐慌があるべきことは我々は二十年來豫想して居つたことであります、即ち斯かる長き年月の間此事に始終精神を惱めて居りまして、今日斯う云ふ一時の現象がありましたも今更敢て甚しく苦痛を感じませぬのは、二十年に引き延して苦痛を感じて居つたからであります、今日最終に演壇に上る光榮を得ましてございしますが、更に何等御話する様な名案を有ちませぬ、有ちませぬ譯は、今日の演題なる鐵自給策と云ふことは私ども同じく二十年來研究して種々な計畫を立てて見ましたが、多くは種々な障礙に遭遇した、それで障礙の無い事業であれば官民とも既にそれを行つて來て居るのであります、私は明治二十九年の官制發布と同時に八幡製鐵所に拜命いたして四十三年まで仕事をして居りましたが同所の如きは初より障害を豫想したればこそ官業で初めたのであります果せるかな種々の障害がございましたが、其障害に打勝てるだけは打勝つて來て今日に至つたのであります、四十三年より民間に出て尼崎の岸本製釘所と目下従事して居る日本鋼管會社とを創立致しましたが此等は皆比較的障害の少ないために各其成立を見るに至つた次第であります此